パネルディスカッション

【要旨】

①課題

- 短期的には大河ドラマ等が予定されチャンスだが、中長期的にはどうするか。
- 国内・海外両方に目を向ける必要があるが、そのためにはどうすれば良いのか。
- 鹿児島の魅力を伝えるのが容易ではない。
- 一過性に終わることが多く、リピーターが少ない状態。
- 多言語対応については、人材不足及び財政的な問題がある。
- 災害による修学旅行先の変更などダメージがあるがどうするべきか。
- 海外に対する発信の仕方をどうするか。

②短期的にできる事

- 海外への発信方法は、既存のメディアだけではなく、ＢＳやＳＮＳといった直接発信できる手段を使っていく必要がある。
- 着地型の観光は、指宿菜の花マラソンの様に、来てもらった人が満足してもらう「おもてなし」をどうやっていくか。
- 実は地元の人があまり知らない、気づかないことが観光客からすれば新鮮であったりするため、地元の人が地元の良さを的確に知っておく必要がある。
- 地域の資源を紹介する場が少なく、ステーション的な役割をする場を整備する必要がある。
- 何かを体験できる場を整備する必要がある。
- 日本特有の文化、例えばだし汁や旨味等、日本独自の感性を伝える術が必要である。

③中長期的な施策・方策

- 観光を第一次産業とマッチングさせる行動が必要。ひいては海外販売、海外から稼ぐというところまで視野を広げていくことが必要。
- 例えばハワイの様に5つの島に分かれていてもアクセスも良く、文化や芸術、景観やスポーツ、食事やショッピングなど夫々の島で夫々の楽しみ方ができるように一体となって連携しながらリピーターを増やしている。
- 日帰りから経済効果の高い滞在型へ。そのためには、観光地を自治体単位ではなく広域に繋げていく「パズル型観光」を取り入れてはどうか。
- 地域資源を有効活用していくため、ストーリー性を持たせた観光地づくりが必要。
- マスマーケティングでたくさんの人を呼び込むということに目が行きがちだが、リピーターということを考えると、お客さんと少しずつと成長しながらともに変化していく。変化できない部分と、変化していく部分が両方ないとなかなかうまくいかない。これは最初の第一次産業と関係が必要になってきて、どう付加価値をつけていくかというのが、毎年毎年考えていかなければならない。
- 広域の連携をしていくことも、自治体の中で単独でできるわけではなく、自治体を越えたところでストーリー性を持たせた観光を作っていくことが成長につながる道になる。その中で今、国が進めているＤＭＯという形を利用していく必要がある。
- 大学が地域貢献をしていかなければならない。能力のある若い人たちを地域の人たちに利用してもらうことで、双方向の価値が生まれてくる。そういったこともこれから観光を考えていくうえでは必要である。

④国、自治体に望むこと

- リピーターの問題が短期的にも中長期的にも出てきているが、それらに関連して非常に大きな武器である通信環境のインフラの整備をしてほしい。

⑤会場（客席）との意見交換

Ｑ１．鹿児島市のグリーンツーリズムは、これから何をしていくべきと考えるか。

Ａ１．近郊農業になると思うので、強みを生かす地産地消になるのではないか。鹿児島市に限らず鹿児島県全体の作物を天文館でＰＲすることが、6次産業化を進めるには非常に有利な部分があると思われる。

Ｑ２．鹿児島の観光業は、自己満足になっているのではないか。バリアフリーに関しても非常にやさしくない。

Ａ２．観光とともに考えていく必要がある。

Ｑ３．ハーブと焼酎をコラボして飲み物を作ろうとしている。鹿児島での香りの可能性やヒントがあればご教示いただきたい。

Ａ３．五感に訴える香りは価値が高い。そこでしかできない特別なものというところを伝えてアピールすることが海外だけでなく国内の方々も面白がる。

⑥塩田次長の総括

- 地域の観光資源を発掘することが大切。
- 人材を育成していくことが大切。
- 細かいことだが環境整備も必要（海外キャッシュカード、Suica や PASMO の利用等）。
- バニラエアの効果で奄美大島へ行く人は増えたが、泊まらないと他の島へ行けない。2 次交通の利便性を見直す必要。
- プロモーションやマーケティングは、鹿児島全体で 1 つの方向にまとまった方が効果は大きいのではないか。